

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171600200		
法人名	有限会社 コトブキ		
事業所名	江北紀水苑		
所在地	佐賀県杵島郡江北町大字上小田1261番地		
自己評価作成日	令和4年1月26日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	令和4年2月15日	外部評価確定日	令和4年3月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>入所者様の思いに寄り添い、生きがいを感じながら生活して頂けるような空間づくりを目指しています。一人ひとりのペースで過ごして頂けるように、職員同士が情報の共有化に努め、連携して行うことで、入所者様の心地よい生活の為の支援を行っています。また、ご家族様が安心して任せて頂けるように、報告、連絡、相談の中で信頼関係を築き、より良い環境作り、雰囲気作りを心がけています。</p> <p>洗濯、食事の後片づけなどの毎日の家事仕事は、入所者様と職員が共同で行うことで、やりがい・生きがいを持って生活して頂けたらと思います。また、苑の畑で採れた野菜でのメニューを考えたり、簡単な料理などは、出来る範囲で協力して、季節を感じられるような支援を行っています。</p> <p>毎日、個別の機能訓練や体操、ゲーム、クイズなど、身体や頭を使ったレクリエーションを取り入れるほか、天気や季節に応じて、日向ぼっこやドライブ、お花見など、飽きずに楽しんでいただけるような内容を工夫しています。また定期的に専門の講師を招いて指導を受け、レクリエーションの活性化に努めています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>代表者が地域に恩返しをしたいとの思いで開設された事業所であり、地域住民や行政との関係性も良好で協力体制が構築されている。利用者の思いに寄り添うケアを提供するために、利用者や家族の意向を確認し、立案した介護計画が実施されているか、定期的に評価が行われている。管理者や役職者が職員と積極的にコミュニケーションを図ることで、風通しの良い職場となり離職率が低く、安定した運営とサービス提供を可能としている。利用者一人ひとりの情報を収集し共有することで、利用者がその人らしく生活を送れるように何をすれば良いのかを職員全体で試行錯誤し、サービスに繋げている事業所である。</p>
--

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設のモットーである『たのしく、あかるく、ここよく』の理念のもと、家庭的な雰囲気と地域交流の中で、入所者様が自分らしい生活を継続できるよう支援しています。問題が生じた場合は、担当者を中心に、職員間で話し合い、理念に基づいて解決策を探り対応している。	理念は、事業所の玄関や事務所に掲示し、誰もが確認できるようになっている。生活に沿ったケアができるように利用者の情報を収集し、理念に即したサービスを提供できる体制である。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で様々な交流が減ってしまったものの、地域の神事やお祭りの際は、地元区長様より案内を頂き、参加させて頂いたり、子供たちによるお祓い行事(もぐら打ち)、浮立などの訪問も恒例でした。入所者様も普段叶わない子供たちとの交流に笑顔がこぼれ、太鼓や笛の音を間近で聞くことで良い刺激となられていました。ここ2年は行事自体が減ってしまったり、感染予防を優先させている為、地域行事への参加は控えています。近所の方から、お野菜を頂いたりしながら、ご近所様との交流を大切に行っている。	コロナ禍において交流を図る頻度は減少しているが、近所の方とは継続され、野菜を頂いたり、玄関先で会話をされるなど感染予防に努め、可能な範囲で実施している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中で、施設でのケア経験を元に、認知症の方の理解や支援方法について意見交換を行っている。コロナ前は、町内の老人会からの依頼で、レクリエーション指導等にも行かせて頂いており、地域の方々に向けて、脳の活性化、認知症予防の一助になればと取り組んでいた。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	偶数月に開催している運営推進会議では、状況報告や抱えている問題や、高齢者介護について意見交換を行っている。コロナ禍となり、会議の開催は文書での報告と聴取することで対応となっており、一同に会すること控えている。しかしながら、参加して下さっているお一人お一人と、対話することが出来、様々な意見を聞くことも出来、より良いサービス提供につながっている。	区長、民生委員、地域包括、家族により構成されている。家族は誰もが参加できるように整備され、不参加の家族は議事録を閲覧することができる。現在はコロナ禍のため書面での報告を実施されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	困難事例等があった場合は、町の福祉課へ相談するなどして、問題解決へのヒントを頂いている。逆に入所についての相談を受けることもあり、自宅生活が困難な方に対し、入所につなげる際に、町の福祉課を中心に、医療、家族、施設など、様々な機関が協力し対応している。また、町主催の認知症のイベント等での協力依頼(マリーゴールドの栽培)を積極的に受けるなど、相互に協力関係を築くように取り組んでいる。	行政より入居の相談があり、状況によっては待機して頂いている。町と共同し認知症カフェを実施したり、関係性を築くことができている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	グループ本部で行われる研修会、外部研修に参加したり、事業所独自の勉強会を行うことで、職員全体で知識を深め、「身体拘束をしないケアの実践」に取り組んでいる。入所者様が自由を束縛されることなく、穏やかに過ごして頂けるように、思いに寄り添うような対応を心がけている。	現在は身体拘束の事例はなく、契約時に身体拘束をしない方針を家族に伝えている。もし、必要性があるときは委員会で協議し、家族の同意を得て実施される。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関するマニュアルを整備しており、勉強会を通して、職員全体で理解を深められるよう取り組んでいる。また、入浴時や外出、外泊の前後には、アザや傷が無いかな、身体のチェックを行うようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者をはじめ職員は積極的に研修に参加し、理解を深めるよう努めている。また定期的に開かれるグループ本部での勉強会に参加し、問題に直面したときに対応出来るように備えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明を行い、入所者様の状態を可能な限り把握した上で、苑の支援方法や入居後の生活について、理解・納得していただいた上で、契約を結ぶようにしている。同じく退去時も説明を行い、また次のサービス等の利用に向けて相談援助かつ情報提供等を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時やケアプラン更新時には、家族様から意見や要望を個別に聞き取りをしている。心身状態の変化や治療方針に変更があったときには、電話等で報告を行い、ご家族様に協力頂かなければならない事、苑で支援できることについて話し合い、共に協力して支援していくようにしている。入所者様には日常的なコミュニケーションとして要望を聞くようにして、ケアプランや運営に反映させている。 コロナ前は家族交流会を開催しており、その中では入所者様の家族同士で様々な意見を出し合っ、交流出来るような開会を設けていた。	意見箱を設置されているが、投函されることはなく、直接話をされることが多い。日頃より、家族へ連絡を行い現状を伝えていることで、信頼関係が築けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な全体会議や個別面談を行い、職員の意見や提案を反映させるようにしている。また、軽微な変更や調整、提案等については、毎日行われる申し送りを通して、随時、意見や考えを出しやすい環境を整えている。入所者様が穏やかに過ごさせて、また職員が働きやすく、効率的に仕事が進められるように、お互いにとってより良い業務改善に取り組んでいる。	全体会議を毎月開催し意見を集約、必要に応じて個人面談を行っている。日頃より、管理者や役職者が職員一人ひとりとコミュニケーションを図り、働きやすい環境を整えられていることで、職員の定着に繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の勤務状況を把握した上で、研修参加や資格取得、実績、日頃の勤務態度等を評価しながら給与、賞与に反映		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の資質やケアのレベルを把握した上で、研修に参加できるよう勤務を組んでいる。また、職員自ら、受講したい研修等があれば、勤務の一環として参加できるように勤務を組み、参加しやすい環境整備に努めている。そのほか、グループ本部主催の勉強会では、職員のレベルにあった研修への参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍でここ2年は控えているが、定期的に他のグループホームとの交流研修会を計画している。研修後は交流研修で気づいた点や改善点を明確にし、サービスの質の向上につなげている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に入院先や自宅等へ伺い、本人と面会し、不安や要望、生活歴や趣味嗜好等について聴き取りし、安心納得して頂いた上で、入所して頂くようにしている。基本情報を職員全体で共有して受け入れ、安心・信頼できるような関係・環境作りに努めている。入所間もない時期は、特に密に接し観察し、慣れない生活での不安やストレスを軽減できるように対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前にご家族、管理者、ケアマネージャーとで話し合う機会を作り、家族の要望、不安等を聴き、施設の理念・方針を説明し、安心・信頼出来る関係作りに努めている。施設(職員)とご家族が協力して、それぞれの役割を明確にし、利用者様と支援できるような関係作りを心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前に本人様の情報を収集し、その方の状態と性格、ご家族との関わり方を把握した上で、その方に今、必要と思われるケアを提供できるかを見極める。グループホームだけに絞らず、その方にとって、最も望ましいサービス、又は環境を本人、ご家族と共に検討するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯や食事の配膳、後片付けなどの家事仕事を身体状態や認知面など入所者様のレベルに応じて職員と共に行って頂くことで、生きがいにつながればと期待して支援している。また『吊るし柿づくり』などを通して、昔ながらの暮らしぶりや習わしを教わりながら、利用者様を敬い接することで、お互いに支え合い、信頼関係を築けるよう努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、入所者様の状況報告書や苑だより(新聞)にて、暮らしぶりや行事について報告している。急な状態の変化等があった場合は、その都度、連絡し、家族と共に支えていく関係作りを心がけている。病院受診や、理美容については、家族との交流の場として捉え、負担になりすぎない程度、協力を依頼し、共に支援している。家族の役割と施設の役割を明確にし、共に支えていけるような関係作りを目指している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人との関係が途切れてしまわないように、場所を当ホームに変えて、面会という形で関係性を継続して頂いている。コロナ発生以降は面会制限をしており、なかなか行えていないが、手紙を書いたり、個人所有の携帯などでメールを送るなどを支援し、ご家族や親戚の方々との関わりを大切にしている。ご本人も届いた手紙などに喜ばれており、刺激になっている。また、散歩やドライブなどで、入所者様が、慣れ親しんだ場所へ出向くなど、少しでも喜んでもらえるように支援している。	感染状況に応じて面会制限を設けられるが、手紙などを活用し関係性の継続を支援している。可能な限り外出の頻度を保ち、社会性を感じることができる環境である。コロナ以前は、外出や外泊の制限はなく、面会時間は基本的に日中の対応ではあるが、相談時は柔軟に対応することが可能。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員全体で入所者様同士の関係性の把握に努め、相性を考えた上で、座る位置などを考慮しながら交流を支援している。なかなか他の入所者様と交流しようとされない方へは、職員が声掛けをしながら、孤立しないよう、お互いが支え合えるような関係作りを目指している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も何かの折には、相談いただくようにお伝えしている。また、野菜や果物を苑に持ってきて頂くなど、退所後も良好な関係性を継続出来ている。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者様が落ち着いて会話の出来る時間帯に、リラックスして会話をしながら、本人の思いを引き出すように心がけている。また、ケアプランの更新時には、必ず、本人・家族の要望を確認し、入居者様にとって、良いと思われる支援方法を検討している。入所者様別に担当職員を決めて、個別的に観察し、把握するように努めている。視点が偏ってしまうことを防ぐために、定期的に担当職員を変更するようにしている。	利用者には日々の生活で意向を確認しケアを実践されている。生活の中にリハビリやレクリエーションを取り入れ機能の維持に努め、利用者の思いや意向を汲み取った支援に結び付けている。	
----	-----	---	--	--	--

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に前任のケアマネージャーより情報提供を受け、入所の際には、ご家族、ご本人様より生活歴、生活環境、暮らしぶり、趣味、嗜好品などの基本情報を収集している。入所後の生活で、環境の変化によるストレスが最小限で済むようなケアの提供に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送りや経過記録などから、職員一人一人が意識的に利用者の情報を収集する姿勢で取り組んでいる。また、職員間で連携を図り、入所者の状態について情報を共有し、個別的なケアを統一して行えるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入所者一人一人に担当職員を設け、ケアマネージャーは担当者を含め、ご家族、利用者様、医師の意見を取り入れながら、カンファレンスを行い、介護計画書を作成している。定期的に評価、見直しを行い、本人、ご家族の意向を確認し、課題について話し合い、現状に沿った計画書を基に、支援している。	毎月の目標を設定し、評価を実施している。介護士と介護支援専門員が協力して個別ケアを実施できるように介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者ごとの経過記録には、体調や精神状態、出来事について、細かく記録に残している。記録は電子化し、特に周知徹底が必要な点や、支援内容の変更などについては、申し送り事項としてタブレットを開くたびに目を通せるような仕組みになっている。職員間で情報の共有に努め、工夫しながら対応し、介護計画書の見直しにも活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況や家族の協力体制に応じて、24時間対応の往診専門の医療機関に移行し、それぞれのレベルやニーズに合った柔軟な支援体制の確立に努めている。その他、行政手続きや病院受診、衣服やオムツの調達にも出来る限り協力している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的に届けられる配布物や運営推進会議を通して、地域行事等のお知らせを頂き、積極的に参加するようにしている。日々の生活の中でも衣服等の買物に出かけたり、またボランティアや浮立の訪問等もあり、地域の中で楽しむことができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	ご本人・ご家族が希望されたかかりつけ医と連携して、日常的な健康管理が出来るよう支援している。定期受診(往診)時や、体調不良時には健康状態を報告・相談し、医師より指導を受けている。通院については原則はご家族にお願いしているが、緊急時ややむを得ない場合は、職員が同行するなど、ご家族と協力している。	家族の希望する医療機関を受診することが可能。協力医療機関は往診があり、夜間帯も協力体制が整備されている。内科以外にも歯科の往診も可能である。また事業所内に2名の看護師は在籍している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	朝・夕の申し送り時に情報を報告し、その他申し送りノートやタブレットで記録の申し送り欄を活用し、職員全体で情報の共有化に努めている。入所者様の心身状態の把握に努め、異変があれば看護職員に相談し、適切な指示を受け、医療機関と連携して、入所者様を適切に支援できるよう備えている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護情報提供書を提出している。入院中も随時連絡を取り、可能であれば面会に行くなどして情報収集に努めている。入院時の医師からの病状説明などは、出来る限りご家族と共に説明を受け、退院後の対応について医療と連携し、当ホームで無理なく支援出来るよう相談し、指導を頂いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り介護方針に基づき、入居契約時には家族に説明を行っている。健康状態に変化があれば、家族と話し合う機会を設け、重度化した場合や終末期のあり方について、家族の希望を段階的に確認するようにしている。入所者様の状態の変化に伴い、ご家族様の意向も変化することがあるので、その都度話し合い、ご家族様の思い、ご本人の思いに寄り添い、支援している。また運営推進会議等で地域の方々より、様々な事例を伺い、参考にしながら取り組んでいる。	契約時より終末期の意向を確認し、状況に応じてご家族の思いに変更がないか確認をされている。看取りケアは可能であり、必要に応じて研修も実施されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者様の急変時や事故発生時における対応についてマニュアルを整備している。他機関で主催される福祉施設向けの応急手当講習会にも積極的に参加している。また施設内でも定期的に勉強会を開催しており、実際に発生した場合に対応出来るように備えている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害に対しての緊急対応マニュアル、緊急連絡網を整備している。火災訓練は夜間、日中を想定して通報・避難・誘導訓練を年2回、入居者様や地域の協力者と共に行っている。自動火災報知設備、火災通報装置、スプリンクラー、消火器等の消防設備の点検も訓練に併せて行っている。 近年、続いている水害においては、比較的被害を受けにくい立地ではあったものの、避難場所や経路について、地域の方々から情報を頂き、実際の災害時に備えている。また、非常食や飲料水等の備蓄は、定期的に消費期限等の点検を行いながら備えている。	火災訓練は日中と夜間を想定し、年に2回実施されている。訓練時には近所の方や地域の消防団の参加もあり、協力体制がある。非常食については3日分の備蓄もあり、災害時のマニュアルも整備されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報の取り扱いについては規定し、周知徹底している。本人が自分の思いで選択できるような言葉かけを心がけている。一人一人の人間性を尊重し、プライバシーを損なわないよう、傷つけないような言葉遣いと気配り対応を目指している。また、グループ本部で開催される勉強会にも参加し、学ぶことで知識を深め、全員が意識して対応するよう努めている。	入社時に個人情報の取り扱いについて職員研修を実施。また、定期的に権利擁護についての研修も行い、サービスの質向上に努められている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入所者様一人ひとりに「寄り添うケア」を心がけ、同じ目線で自分の思いを打ち明けやすい雰囲気・環境作りに努めている。また、共同生活の中でリラックスし、出来る限り満足して暮らせるように言葉かけを行い、本人の思いや希望を大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは決まっているが、柔軟に変更できる体制となっている。レクリエーションの参加や入浴も強制することなく、入所者様の思いを尊重している。出来る限り入所者様の生活リズムやその日の体調、気分に合わせて、本人の意向を尊重し、無理なく過ごしていただけるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服選びは本人の好みで決めて頂き、気候に合った服装であるかどうかの見守りを行っている。理美容については、ご本人あるいはご家族の希望により、馴染みの店に行けるように支援している。外出できない方には、地域の美容室より出張をお願いし、きちんと整容を保てるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の収穫、料理の下ごしらえ、味見、配膳や後片づけ、食器洗い等、出来ることを職員と一緒にやっている。また畑で採れた野菜で何を作るかなど、入所者様と共に考えを出し合っている。あくまで家事に意欲のある方の意志を尊重し、強制することはしていない。食事メニューは、入所者様の好みや栄養バランスを考えて、季節を感じられるように出来るだけ旬の物を提供している。また、マンネリ化や偏りを防ぐために、献立表は一週間ごとに職員が持ち回りで作成するようにしている。	職員が1週間分のメニューを作成し、利用者の嗜好を反映させることもできている。食事形態は、常食、刻み食、ミキサー食の提供が可能。季節の行事に合わせて、メニューを考案し、食事が楽しめる環境となっている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考え、成分表を使用し献立を作っている。食事・水分の摂取量は24時間を通して、タブレット入力にて管理している。水分摂取を拒まれる方においては、タイミングや好み、形状などを工夫し、個人別の目標摂取量を目安に管理している。また、ご家族との外出中に食べられた物や量、間食なども聴取し、摂取状況の把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人一人の身体レベルに応じて、口腔ケアを行っている。状態に応じて、訪問歯科治療を受け、口腔内を清潔に保てるよう支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄もタブレット入力(電子化)で行い、排泄パターンを把握し、個人のレベルに合わせて、自立に向けた支援を行っている。尿意、便意のないオムツ使用の方においても、尿間隔や仕草などから判断して誘導し、できるだけトイレで排泄して頂くように支援している。 また、オムツの正しい使用方法について、販売業者に講習を依頼し、サイズや商品が、入所者様の状態に適正であるかなどを精査し、交換するタイミングなども考慮し、オムツの使用枚数を減らすよう努めている。	排泄パターンの把握だけでなく、しぐさや兆候を分析し、トイレ誘導を実施されている。夜間帯はポータブルトイレを状況に応じて使用され、自立支援に向けた取り組みが行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	持病を考えた上で、個人ごとに1日の水分摂取量を設定し、タブレット入力で管理している。繊維質の多い食べ物をメニューに取り入れたり、水素水を飲用して頂くなどしている。体操や歩行訓練の時間を毎日設け、出来るだけ身体を動かすよう支援している。必要に応じて腹部マッサージも行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	原則として一日おきの入浴を行っているが、毎日入浴支援は行っているため、希望によっては毎日でも入浴出来る。寒い時期は拒否される方も多く、声のかけ方やタイミングなどを工夫している。また、どうしても拒否される場合は、無理強いすることなく、ただ、不衛生にならないように、清拭等に対応することもある。また、浴室暖房や足浴などで冬でも気持ちよく入浴できるよう環境を整備している。	週に3回の入浴が可能であり、基本的には午前中が入浴の時間となっている。本人の希望に応じて午後から入浴できるなど柔軟な対応が可能である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床・消灯時間は決めておらず、昼寝するもしないも本人の意思に任せている。入所時にそれまでの生活パターンを聴取し、昼夜逆転など大きな乱れのある方には、徐々に生活リズムを整えて、安眠・休息が十分に確保でき、心地よく生活できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	調剤薬局との連携で、タブレットでどのような薬が処方されているのか、また効能や副作用、用法、容量まで確認できるように整備している。また処方の変更された場合は、往診に携わった職員は記録に残し、全職員に申し送り、また他の職員はその内容を確認するように定めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備、後片付け、掃除、洗濯などは入所者個人の状態とその時の気分に応じ、役割分担をして行って頂いている。またドライブに出かけたり気分転換を図っている。依頼された作業に、皆様意欲的に取り組まれているのを感じる。また好物などをご家族様が差し入れされたりと、ご家族様との関わりにも役立ち、入所者様も大変喜ばれている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日のレクリエーションの時間を活用して、天気の良い日にはドライブをしたり、園庭や近所を散歩したり、日常的に戸外へ出かけ、気分転換を図れるようにしている。 衣類の買い足しが必要な場合は、職員と共に出かけて、好みの衣服を選んで購入できるような支援を行っている。ドライブコースは入所者様の馴染みの店や地域を廻ったりしている。お知り合いの方に会うこともあり、懐かしい人や風景に大変喜ばれている。	毎日14～15時がレクリエーションの時間となっており、ドライブに外出されることもある。多くの方がドライブに参加できるように日にちを分けて対応される。利用者に応じて馴染みあるドライブコースを選び個別対応となっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブルの原因となることもあるので、原則として現金の所持に関しては控えて頂いている。しかし、現金を持つことで安心感を得られる方もあり、少額の現金を所持して頂くこともある。買物については、職員と共に出かけ、本人の好みで選んで頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入所前から持たれていた携帯電話を持ち込まれている方もおられ、職員と共に操作しメールを送ったり、手紙を書いたり、電話をかけたりとご家族とのつながりを大切に支援している。またご家族やご親戚から届いた年賀状を渡すと、大変喜ばれ、居室に飾るなどして大切にされている様子が窺える。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設が高台に位置しており、ホールの窓からの山や畑、街並みが一望でき、十分に季節を感じることができる。近隣や町内出身の方がほとんどで、慣れ親しんだ風景の中で穏やかに過ごされている。季節に応じて、玄関やホールの装飾を変えたり、四季を感じられるような工夫をしている。夏の間、日当たりが良すぎる部屋においては、ブラインドやよしず、すだれなどで日光調節を行っている。	新たに机を購入し、同一方向を向いて食事を提供するなど、新型コロナウイルス感染予防にも努められている。リビングでは日々のレクリエーションを行うスペースとして活用され、玄関先にはベンチを配置し、交流ができるスペースとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールやテーブルやソファをいくつかに分けて配置し、気に入った場所で各々に過ごされている。気の合う方同士でおしゃべりをされたり、思い思いに過ごしてもらえよう、居心地の良い空間づくりを目指している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や嗜好品の持ち込みは奨励しており、写真立てやカレンダー、タンス、ソファ、ステレオや仏壇などを持ち込まれている。居室を思い思いに馴染みの家具や写真などで装飾して頂き、本人様が安心して過ごせるスペースとなるように、ご家族と共に工夫している。	居室には、ベッド、タンス、クローゼットが準備され、火気があるもの以外は自由に持ち込むことができる。ソファや仏壇を持ち込まれているケースもあり、利用者にとって、落ちつける環境が提供できる仕組みとなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日めくりカレンダー、見やすい時計を設置し、日時、曜日の確認が出来るようにしている。居室の入口には表札を掲げ、トイレ、浴室にも分かりやすいように目印をつけている。夜間帯でもトイレの電気はつけるなど、随所に目印を設置し、混乱を防ぐような環境作りに努めている。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)
 ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない